

熊本大学病院薬剤部

・特徴や魅力

当院薬剤部は、医薬品の安全管理・適正使用支援を担う部門として機能しています。薬剤師は、患者さんに対する安全で有効な薬物治療を確保するために、医師や看護師等の医療スタッフとともに、職種横断的なチーム医療の中で薬学的視点に立った「薬のスペシャリスト」として職責を果たすことを責務としています。薬剤業務の基盤となる調剤・処方鑑査・疑義照会、医薬品情報提供、医薬品管理、薬物血中濃度モニタリング等の各種業務と機能的に連携し、患者さんの目線に立ちつつも薬学的観点や科学的エビデンスを踏まえた薬剤管理指導業務とともに、副作用モニタリング、診療科での症例カンファレンスやミーティングでの医療スタッフへの情報提供等を含む病棟薬剤業務、治験業務並びに医療安全管理業務を実践しています。また、全診療科の入院患者さん並びに通院点滴治療を受けている外来患者を対象とした注射用抗がん剤の無菌調製業務は、感染予防やがん化学療法 of 安全確保といった視点から、薬剤師の専門スキルが不可欠な業務として取り組んでいます。中央手術室や感染制御部にも専任・専従薬剤師を配置し、手術時に使用される医薬品の管理業務や抗菌薬の適正使用を行っています。

薬剤部が主体となって取り組んだ注射用抗がん剤無菌調製システムの構築とリスク管理の実践展開、持参薬確認システムの構築に基づく病棟スタッフ業務負担軽減と安全管理の推進、情報共有ツールとしての施設間患者服薬状況等連絡書および服薬サポート依頼書の新規策定と有効活用、医薬品適正使用の監視・推進を企図した「医薬品の適応外使用評価部会」の活動、医薬品の適正使用推進および経済効率を企図した院内フォーミュラリ（指針）の策定と導入効果の検討は、いずれも本学の医療活動表彰を受賞し、医薬品安全管理・適正使用の推進を企図した院内活動として高く評価されています。

また、薬剤師の業務特性を生かして臨床研究ニーズやクリニカルクエスチョンを把握し、診療科との共同研究により、血中濃度モニタリングに基づく抗生剤等の個別投与設計法の開発、抗がん剤耐性獲得機序の解明、腎臓病の病態形成機序や尿毒症治療薬の開発等に関する医療薬学研究やトランスレーショナルリサーチも積極的に展開しています。

薬剤部は生命科学研究部・臨床薬物動態学分野として、薬学部学生・薬学教育部大学院生の教育・研究指導並びに薬学部生の長期実務実習を担当しており、資質の高い薬剤師の育成にも注力しています。本院は、日本医療薬学会認定研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修認定施設・同薬物療法専門薬剤師認定研修施設、日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設、同 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師研修施設等に指定されており、各種専門・認定薬剤師の資格取得を支援することで、各種疾患領域のより高度な専門知識・スキルを備えた薬剤師の育成も行っています。

・見学会などの情報

例年、5月頃に薬剤部見学説明会を実施しています。各大学へ開催案内を発送するとともに、薬剤部 HP にも掲示しますので確認してください (<https://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/pharmacy/index.html>)。

・薬剤部採用情報

6月頃に薬剤師採用情報を本院 HP に掲載する予定です。令和6年度は、新卒・既卒を含めて数名程度を公募する予定です (<https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp>)。

・近隣病院の採用情報案内

熊本県病院薬剤師会の会員施設紹介サイトにて、県内各施設の採用情報等が参照できますので URL で確認してください (<https://kumamoto-hp.jp/facilities/>)。

・連絡先

熊本大学病院 薬剤部 准教授・副薬剤部長
城野博史 (じょうの ひろふみ)
〒860-8556 熊本市中央区本荘 1-1-1
TEL: 096-373-5823
E-mail: hjono@kuh.kumamoto-u.ac.jp